回覧

「石神台ガーディアン」2021年12月報告

2021（令和3年）年12月22日
石神台ガーディアン代表　中野靖久
編集者　小野修司

1） 団員数

昼間合同巡回実施者：	２８名
夜間合同巡回実施者：	２２名
青パト巡回実施者：（同乗者を含む）	０名
以上のどれかの巡回をしている人数：	５０名

個人的に巡回している方70名を加えると、トータル121名です。
夜巡団員が少なくなっています。　　団員募集中！！

2） 11月16日～12月15日の巡回実施状況

合同歩行パトロール（自分の住む丁目を中心に実施）昼の部も11月より再開しました。
12月に入って例年通り寒くなりました。夜巡回は防寒コートを着ての巡回となりました。

	昼		夜	
	実施日数	延べ参加者	実施日数	延べ参加者
１丁目	４日	２９名	１０日	２８名
２丁目	８日	４１名		３８名
３丁目	７日	１７名		３０名
全体	１９日	８７名		９６名

＊青色回転灯装着車によるパトロールはついに0となりました。

3） 通学路安全パトロール（今月は21日間でした。）

私は週に2回、学童の通学路の見守りをしています。子供たちとの朝の挨拶はテンションがアップし、明るく笑顔で楽しい1日のスタートです。子供達との見守りとの出会いに「ありがとう」と伝えたいです。（E.A）

4） 不審車両と区別するステッカーの表示

	調査した夜間　１０日間			
	路上駐車台数	ｽﾃｯｶｰ有数	ｽﾃｯｶｰ有比率	９０％を目標にしていますので住民の皆様に更にご協力をお願いいたします。
１丁目	３２台	２４台	７５．０％	
２丁目	５台	５台	１００％	
３丁目	１０台	１０台	１００％	
全体	４７台	３９台	８３．０％	

今月は1丁目の駐車台数が多かったようです。一時的な駐車でもステッカーを入れるよう、住民の皆さんのご協力をお願いする次第です。

5）ガーディアンの気持ち

１２月に入って、例年通り寒くなり夜の巡回は皆さん防寒具を着ての巡回となりました。
冬の防寒具は鮮やかな黄色で夜目にも目立ちます。夏はやはり黄色のＴシャツで、春と秋はオレンジ色のジャンパーです。十数年前の自治会の総会で「ガーディアンはユニフォームを着る必要があるのか？経費の無駄遣いではないか？」という質問、意見がありました。これには悲しくなりましたね。
「大勢で同じ派手なユニフォームを着てパトロールをする」、これは当時生沢駐在所の村瀬さんの口癖でした。これこそが犯罪者に「石神台は凄い！空き巣は出来ない！」という抑止力になっているのです。
今夜もまた黄色の防寒具を着て風邪など引かないようにパトロールをしよう！

6）大磯警察より

＊二宮で2件、大磯で1件車のタイヤをパンクさせられた事案とボディーに傷をつけられる事案がありました。

＊窃盗事件も2件あり、1件は店舗内に保管していた財布を盗まれたもので、もう1件は無施錠の自転車盗です。目につくところに財布を置かない。自転車は必ず鍵をかけましょう。

＊神奈川県内では行政機関の職員や金融機関の職員を名乗っての「還付金詐欺が流行っています」こちらも十分注意しましょう。

＊大磯警察署管内の今年１１月末までのオレオレ詐欺は6件で1050万円、架空請求詐欺は4件で321万円、合計10件で1371万円です。まだまだなくなりません、気を付けて下さい。

7）編集部より

＊　今年も残り10日余りとなりました。コロナ禍で明け暮れた1年でした。年末になってまたややこしいオミクロン株とやらの症状があまり顕著に出ないけれど感染力の強い新型コロナウィルスがはやりそうな気配です。
年末年始は外出する機会も多くなります。必ずマスクを着用し、帰宅後は手洗い、うがいを忘れずに行い、新型コロナウィルスは勿論風邪なども引かないように気を付けて下さい。

＊月報の編集を担当するようになって来年3月で満5年になります。「ガーディアンの気持ち」と「おまけコーナー」のネタ切れになりそうで、月報の存亡にもかかってきています。是非ご協力を！

挨拶で犯罪なくそう石神台

石神台ホームページ

https://ishigamidai.com　　海が見える街　大磯町石神台　検索

大磯警察　生沢駐在所だより（ふれあいパトロールたかとり）は：
https://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/69ps/69pic/69004_12.pdf

大磯警察　駅前交番だより（おおいそ）は：
https://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/69ps/69pic/69004_06.pdf

番外・付録・おまけ…「犬とわたし」

犬や猫を飼育した経験をお持ちの方は、人それぞれに彼らとの物語をお持ちだと思います。私の場合は、物心がついた昭和 30 年代の話から始まります。最初の犬は、マリ。次にコロ、ポチ（いずれも茶系の雑種）と続きます。　家の中には一時、13 匹の猫がいる時もありました。元はと言えば、父が仕事の帰りに拾ってくるのが原因でした。

当時、去勢、避妊手術はまだ一般的でなく、犬も猫も自由に外を歩き回り、時に外泊もありで、街中をかっ歩していました。

昭和 30 年頃、神戸の〇〇区では、日曜の早朝、野良犬の捕獲（保護？）に離れている犬の首に針金の輪をかけるのに行政のトラックが走り回っていました。悲痛な鳴き声で逃げ惑い追い詰められるその光景は、幼少期の私には、消すに消せない衝撃的な出来事となりました。

昭和４０年頃ポチが我が家に。母に言わせれば、これも父の宴会の帰り酔っぱらって連れ帰った犬です。この犬を最後まで飼育できなかった事に「罪の意識」が残り、忘れられない出来事となりました。父の身勝手な行動により自宅を売却、集合住宅に移る状況になり、獣医さんに安楽死をお願いする選択しかなく、父の事で毎夜泣いている母に替わって私が連れて行く事になり、その道すがらポチに謝り、泣き続ける私でした。ポチ 10 歳の時でした。

もう決して犬は飼えない、飼ってはいけないと思い続けていましたが、昭和 59 年、新しい犬（ブン）との出合いがあり、保護することになり 19 歳まで私の元で共に過ごしました。**「犬は飼い主を生涯信頼するが、飼い主は犬を簡単に裏切る時がある」**これは、私の飼育の座右の銘になっています。

次に虐待を受けていた犬、ハナ（雑種白）2 歳半を個人のシェルターから迎えて 15 歳まで共に過ごしました。　そして一昨年、譲渡を受ける年齢を超えているのにも関わらず、獣医さんを通し保護センターから 12 歳の保護犬、ハル（柴の雑種）を迎えて 2 年が経ちます。

犬との散歩は、四季の移ろいの美しさを教えてくれ、地域とのコミュニケーションを生み出します。犬に生かされている人生に感謝です。

時に犬は人間のパートナーとなり、関係を築いて立派な社会貢献を果たしています。盲導犬、介助犬、聴導犬、災害救助犬、麻薬探知犬など社会での活躍は周知の事と思います。　六代目は、「お手、お座り、伏せ、待て」もしませんが、私にはこの上ない大切なパートナーとなり力を与えてくれています。

皆さんにとっての大切な動物のパートナーは、小鳥、猫、ハムスター、フェレット、うさぎ、熱帯魚…でしょうか？
いつか大切なパートナーとの物語を是非お聞かせ下さい。

（２０年来の私の友人、横浜在住のハナハナさんからのエッセーです）